

准教授

本田 洋

HONDA, Hiroshi

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~hhonda/>

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学教養学部教養学科第一文化人類学分科卒業
1986年4月 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専修課程修士課程入学
1988年3月 同上 大学院社会学研究科修士課程修了
1988年4月 同上 大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程進学
1988年8月 文部省アジア諸国等派遣留学生として韓国ソウル大学校に留学（～1991年5月）
1993年3月 東京大学大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程単位取得満期退学
1993年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～1994年3月）
1994年4月 東京大学教養学部助手（～1996年3月）
1996年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手（～2000年3月）
1999年8月 韓国ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所研究員（～2000年8月）
2000年3月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授（～2002年3月）
2000年9月 英国オックスフォード大学訪問研究者（～2001年3月）
2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会・文化人類学

b 研究課題

韓国朝鮮社会を対象として、人類学的な観点から調査研究を進めている。博士課程在籍時より20余年間、韓国全羅北道南原地域でフィールドワークを続けており、他の地域でも短期の調査を重ねている。近年の研究課題は、(1) 近年の韓国社会における都市居住者の農村地域への移住現象（「帰農」「帰村」）とコミュニティ運動、(2) 朝鮮半島中・南部農村社会を対象とした民族誌資料の再分析、(3) コミュニティ概念の再検討と近現代韓国社会への適用、等である。

c 主要業績

(1) 論文

本田洋、「日本の人類学における韓国研究：1980年代末以降」、『社会科学 Webzine（韓国社会科学協議会）』、6号、2010.8

HONDA Hiroshi, 'Return to Peasantry': Urban-to-rural Migration in South Korea after the IMF Crisis, *Material Asia: Objects, Technologies & Rethinking Success* (Proceedings of SEAA 2011), pp.62-68, 2011.8

本田洋、「韓国の帰農：智異山麓山内地域の事例から」、『韓国朝鮮文化研究』、11号、21-55頁、2012.3

(2) 書評

嶋陸典彦著『韓国社会の歴史人類学』（風響社、2010年）、本田洋、『文化人類学』、75巻4号、617-621頁、2011.3

(3) 学会発表

国内、本田洋、「都市からの離脱、競争からの離脱：韓国南西内陸山間部山内地域の「帰農」、日本文化人類学会第45回研究大会、2011.6.12

国際、本田洋、「'Return to Peasantry': Urban-to-rural Migration in South Korea after the IMF Crisis」、SEAA 2011 *Material Asia: Objects, Technologies & Rethinking Success*、韓国全北大学校、2011.8.1

国際、本田洋、「공간에 결부된 시간의 흐름: 나의 필드 키우기」、전북대학교 고고문화인류학과 BK21 사업단: 해외석학 초청강연회、韓国全北大学校、2011.8.5

(4) 教科書

『社会学概論 2010』、盛山・上野・服部・松本・武川・佐藤・白波瀬・本田・赤川、執筆、東京大学文学部社会学専修課程、2010

『社会学概論 2011』、盛山・松本・武川・佐藤・白波瀬・中村・本田・赤川・出口、執筆、東京大学文学部社会学専修課程、2011

(5) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C)）、本田洋、研究代表者、「韓国社会のポスト産業化に関する人類学的研究」、2010

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)）、本田洋、研究代表者、「韓国社会の生き方に関する人類学的研究：グローバル化する競争社会における折衝と離脱」、2011～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、日韓文化交流基金、「地方から見た韓国社会：人類学的考察」、2010.3

非常勤講師、東北大学文学部・大学院文学研究科、「韓国地方社会の民族誌」、2010.12

(2) 学会

国内、韓国・朝鮮文化研究会、運営委員（事務局・庶務責任者）、2010.4～

国内、日本文化人類学会、広報委員、2010.4～